


|   |  |  |
|---|--|--|
| <p>第34号<br/>平成23年9月</p>  | <h1 style="text-align: center;">もう一つの道</h1> <p>情報は、うのみにせず、注意深く徐々に試して下さい。</p> | <p>山田整骨院<br/>熊本市出水4-25-1<br/>096-364-7611<br/><a href="http://yamadasu.com/">http://yamadasu.com/</a><br/>E-mail:yamadasu@opal.ocn.ne.jp</p> |
|---|--|--|

なるほど！！役に立ちます！

(西式) 応急処置法 (その二) 西勝造  
 昭和18年9月号 月刊 健康科学

凍死、凍傷の場合。寒いところで機械などを手袋を脱いでいちっでいて、急に暖めたりすると腐ってしまう。手を外に出していた場合は、急に暖めないで冷たいものから順次に、暖めて行く方法をとらねばならぬ。…略…凍傷の場合は、気をつけねばならぬことは、鉱物性の油をつけるということです。同じ油でも、植物油とか、動物油とかをつけたのでは、凍傷を起します。略…北緯五十度、北極星を睨んで、五十度の位置を決定して石を立てるわけですが、日本人は凍傷でやられるがロシア人は平気である。…略…ロシア人は鉱物油をつけていて、日本人は植物油をつけていたわけです。略…

服毒の場合。劇薬を誤って呑んだというような場合には、手当てと申しても、いろいろと量によって異なって来ます。吐かせる場合もあれば、浣腸する場合も有ります。裸療法と温冷浴をやる。浣腸をする。なるべく上に吐かせる方がよいのです。

出血の処置。鼻血、歯の出血、吐血、子宮出血等と、種々ありますが、鼻血でどうしても止まらないという場合には、食事を減らすことを考えねばなりません。鼻血というものと食事を別々に考えて、食事は食事として摂らねばならぬものと考えてはいけません。これを要するに、一朝、事が有ったら、全然、断食をするという精神が有れば、もう病気は、ほとんど考える必要はないのです。略…歯齦から血が出るのが有ります。これは、つまりはビタミンCの欠乏から来るのですから、一時クリマグでも塗って置いて、止血する。一方では、十分にビタミンCの補給をすることが肝要です。

咯血、これは肺を患っていると手足が冷たくなっていて、血が廻らないのです。血が廻らなくなると、今まで身体全体に循環しておった血液が、急に手足に廻っていかなくなって肺の弱って居るところを破って、咯血して来るという順序になるのです。ですから咯血した時には、これは手足が冷くなって、血液が廻りかねて、肺から一時血が出て来たのであろう。こうお考えになってよい。そして悠々と、食事を止め、手足に袋をはめて、暖をとることが必要です。…略…但し吐血の場合でしたら、断食以外には方法は有りません。吐血は胃袋からですから、断食による外はないのです。…略…眼底出血、

皮下出血とかいう場合は、頸椎七番を叩くと治ります。

嘔吐の場合。嘔吐は太陽叢を押えて、姿勢を正し、頸椎一番を叩けば、出してしまいます。よく下っているから、水を飲もうとするが、吐気があって飲めないと云う場合に困ることが有りますが、その場合は、吐くものは、吐かせるのが良いのです。

腹痛の場合。よく突然、腹が痛み出したと申しますが、突然ということはないので有ります。必ずその前に、痛み出す原因は立派に有るのです。その原因は何から来るかという、腸の壁が剥れる場合、或は、玉ネギを三ヶも食べて、水を五杯も飲んだという場合です。腹の中で玉ネギは膨張し切って、急に排泄しようとするから、腹痛をおこすのは当然なことです。そう云う場合には金魚運動をするのが一番です。金魚運動をやれば、上に出るものは上に出る。下に出るものは下に出てしまいますから、けろりと治ります。

下痢の場合。下痢の時にいくら水を飲んでも止まりませんとおっしゃる方が有りますが、繊維類を摂っているからです。繊維のものを食べずに、水を飲めば下痢は止まるものです。

発熱の場合。さむけと発熱は同じで有りますが、小児のひきつけ、これは腸の宿便から来ているのですから、大騒ぎを演ずることなく、凝乎として置けば治ります。そして腸の宿便に対して方法をとれば良いのです。てん癇の場合、これは蟹ばばという、所謂胎便の停滞からくるのですから、よろしく之れを出してしまうべしです。以下略。

|   |   |
|---|---|
| 解 | 説 |
|---|---|

裸療法…衣服を脱いで裸になって、全身を空気にさらしたり、毛布を被ったりします。最初20秒裸になり、1分毛布を被り、交互に行い約30分かかります。効能は皮膚呼吸をつけることです。体表面から尿素を始めとする老廃物を発散し酸素を供給します。ちょっとした風邪なら、裸療法だけで治ります。

温冷浴…温浴と水浴を1分ずつ交互に行うもので、基本的には水から始め、水で終わります。合計7回～11回くらい行います。初めて行う人は慎重に行い、下半身から始めるといいでしょう。血液循環を旺盛にし、体液の酸アルカリの平衡を保ち、神経痛や皮膚疾患、疲労回復等に有効で、肌がキレイになります。

断食…水以外の食事を摂らないことです。消化吸收の活動を停止し、その分のエネルギーで免疫力、治癒力を高めるということであり、栄養過剰の状態であれば、それをストップするという事です。大変効能が高く、その分リスクも高いので、熟練した指導者の下で行わなければいけません。

出血の際のビタミンCの補給については、もう一つの道9号と17号を参照して下さい。